


環境省・オフセット・クレジット認証運営委員会
(事務局:気候変動対策認証センター)御中

平成23年5月25日

オフセット・クレジット（J-VER）プロジェクト登録依頼書

オフセット・クレジット（J-VER）制度における妥当性確認が終了しましたので、プロジェクト登録を依頼します。

プロジェクト名¹			
香川県榑フジフーズによる高効率ボイラを用いた温室効果ガス排出削減事業			
【依頼者】プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	株式会社フジフーズ		
住所	香川県さぬき市長尾西1881番地		
代表者氏名	高津 友廣	代表者役職	代表取締役社長
担当者氏名	松井 重春	担当者 所属部署・役職	専務取締役
担当者 E-mail	matsui@fujifoods-ruchan.co.jp	担当者電話番号	0879-52-3131
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	株式会社フジフーズ		
プロジェクト参加者名	なし		
オフセット・クレジット（J-VER）取得予定者			
事業者名(フリガナ)	株式会社フジフーズ		
	以下のうち当てはまる項目に☑ <input checked="" type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト代表事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト事業者である。 <input type="checkbox"/> 本プロジェクトのプロジェクト参加者である。		
妥当性確認機関			
妥当性確認機関名	ペリージョンソンレジストラークリーンディベロップメントメカニズム株式会社		

¹ プロジェクト名は、抽象的な表現を避け、「〇〇県△△事業者による□□（排出削減技術）を用いた温室効果ガス排出削減事業」のように、先にプロジェクト実施場所やプロジェクト事業者名を入れる等により、第三者に事業内容が伝わりやすいものとしてください。但し、事業の愛称やキャッチコピーをサブタイトルとしてつけていただくことは可能です。

プロジェクト情報																
プロジェクト概要 ²	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>① 目的</p> <p>株式会社フジフーズにおける既設の A 重油焚き小型貫流ボイラを高効率の LP ガス焚き小型貫流ボイラへ転換することで、省エネルギー及び化石燃料燃焼に伴う二酸化炭素の排出を抑制するものである。</p> <p>② 内容</p> <p>換算蒸発量 1,500[kg/h]×1台と換算蒸発量 1,000[kg/h]×1 台、計 2 台の A 重油焚き小型貫流ボイラで製造設備に熱供給していた状態から、2,000[kg/h]の LPG 焚き小型貫流ボイラへ更新する。</p> <p>【適格性基準との整合性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー更新および燃料転換であり、条件1を満たす <ul style="list-style-type: none"> ①導入されるボイラ効率は 98.0%(カタログ値)であるのに対し、本プロジェクトで撤去される既存ボイラは効率 90.0%(カタログ値)であり、高効率ボイラの設置である。 ②撤去される既存ボイラは 1985 年に導入され、2011 年 1 月現在も稼動中であり、老朽化や故障による更新ではない。 ・以下の内容により、条件2を満たす。 <ul style="list-style-type: none"> ① ボイラの入れ替えにより、同じ蒸気量を供給する条件のもとで、CO2 排出削減量は 81t が見込まれる。 ② 蒸気需要側での効率改善ではない。 ・導入されるボイラから吐出される蒸気は、すべてフジフーズ工場にて消費され、外部への供給は行わないため、条件3を満たす。 ・投資回収年数は 8.3 年となり、条件4を満たす。 <p>【法令遵守状況】</p> <p>消防法、労安法、他の規制に対する手続きや実施事項について適切に対応しており、更新にともなう規制に対する手続きも準備されている。</p> <p>【採用技術】</p> <p>以下の技術を採用する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型貫流ボイラ (SQ-2000AS×1台)</td> <td>三浦工業</td> <td>10年</td> <td>平成23年2月</td> <td>相当蒸発量:2000kg/h 熱出力:1.25MW</td> </tr> <tr> <td>LPGタンク (2.9tバルク貯槽)</td> <td>中国工業</td> <td>6年</td> <td>平成23年2月</td> <td>用途:LPGの貯蔵</td> </tr> </tbody> </table>	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考	小型貫流ボイラ (SQ-2000AS×1台)	三浦工業	10年	平成23年2月	相当蒸発量:2000kg/h 熱出力:1.25MW	LPGタンク (2.9tバルク貯槽)	中国工業	6年	平成23年2月	用途:LPGの貯蔵
	機器名	メーカー名	耐用年数	導入時期	備考											
小型貫流ボイラ (SQ-2000AS×1台)	三浦工業	10年	平成23年2月	相当蒸発量:2000kg/h 熱出力:1.25MW												
LPGタンク (2.9tバルク貯槽)	中国工業	6年	平成23年2月	用途:LPGの貯蔵												

² プロジェクト概要は、プロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA/QC 体制等に関することを 2 ページ以内で具体的に記述してください。

【モニタリング方法】

以下の項目について、モニタリングを実施する。

LPG使用量: 購買伝票とタンクの液面計による在庫数量の確認により、モニタリングする。

更新後ボイラ効率: ボイラ機器管理データによる排ガス損失法により算出する。(JISB8222)

更新前ボイラ効率: カタログ値をもとに計算する。

【GHG 算定式の方法論への準拠性】

- 今回のボイラ更新により、設備容量(熱出力や相当蒸発量)は増加しない。
更新前: 換算蒸発量 1500[kg/h]1 台と 1000[kg/h]1 台のA重油焚きボイラ 2 台で熱供給
更新後: 換算蒸発量 2000[kg/h]1 台のLPG焚きボイラで熱供給
- 方法論に準拠し、排出削減量を算定している。

①排出削減量の算定

$$\begin{aligned} \text{排出削減量: } ER_y &= BE_y - PE_y \\ &= 400 - 319 \\ &= 81 [\text{t-CO}_2/\text{年}] \end{aligned}$$

パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠
BE _y	プロジェクトにより代替されるボイラ装置によって使用されていたと考えられる化石燃料起源の年間CO2排出量: ベースライン排出量	400	tCO2/年	
PE _y	プロジェクトにて更新したボイラ装置の稼働による化石燃料起源の年間CO2排出量: プロジェクト排出量	319	tCO2/年	

②ベースライン排出量の算定

$$\begin{aligned} \text{ベースライン排出量: } BE_y &= BE_{化,y} \\ &= FC_{化,PJ,y} \times CV_{化,PJ,y} \times CEF_{化,BL,y} \times \eta_{PJ} \times 1/\eta_{BL} \\ &= 104.6 \times 48.26 \times 0.0729 \times 98.0 \times 1/90.0 \\ &= 400.7 [\text{tCO}_2/\text{年}] \end{aligned}$$

パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠
BE _{化,y}	ベースラインのボイラ装置が消費する化石燃料起源の年間CO2排出量	400	tCO2/年	
FC _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量	104.6	t/年	下記参照
CV _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量	48.26	GJ/t	低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95
CEF _{化,BL,y}	ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO2排出係数	0.0729	tCO2/GJ	低位: デフォルト値÷0.95
η _{PJ}	プロジェクトにより更新したボイラ装置のボイラ効率	98.0	%	カタログ値を使用
1/η _{BL}	ベースラインにおけるボイラ装置のボイラ効率	90.0	%	カタログ値を使用

$$\begin{aligned} FC_{化,PJ,y} &= A \text{重油使用量} (\text{kl}) \times A \text{重油低位発熱量} (\text{GJ/kl}) \times \text{更新前ボイラ効率} (\%) \div \text{更新後ボイラ効率} (\%) \div \text{LPG発熱量} (\text{GJ/t}) \\ &= 148 (\text{kl/年}) \times 37.145 (\text{GJ/kl}) \times 90.0 (\%) \div 98.0 (\%) \div 48.26 (\text{GJ/t}) \\ &= 104.6 (\text{t/年}) \end{aligned}$$

※A重油使用量は2010年1月～2010年12月の合計値を使用

③プロジェクト排出量の算定

<p>プロジェクト排出量: PE_y = PE_{化,y} = FC_{化,PJ,y} × CV_{化,PJ,y} × CFE_{化,PJ,y} = 104.6 × 48.26 × 0.0631 = 318.5t-CO₂/年]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パラメータ</th> <th>パラメータの説明</th> <th>値</th> <th>単位</th> <th>根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PE_{化,y}</td> <td>プロジェクトにより更新したボイラ装置が消費する化石燃料起源の年間CO₂排出量</td> <td>319</td> <td>tCO₂/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>FC_{化,PJ,y}</td> <td>プロジェクトにおいて更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量</td> <td>104.6</td> <td>t/年</td> <td>下記参照</td> </tr> <tr> <td>CV_{化,PJ,y}</td> <td>プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量</td> <td>48.26</td> <td>GJ/t</td> <td>低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95</td> </tr> <tr> <td>CFE_{化,PJ,y}</td> <td>ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO₂排出係数</td> <td>0.0631</td> <td>tCO₂/GJ</td> <td>低位:デフォルト値÷0.95</td> </tr> </tbody> </table> <p>FC_{化,PJ,y}=A重油使用量(kl)×A重油低位発熱量(GJ/kl)×更新前ボイラ効率(%)÷更新後ボイラ効率(%)÷LPG発熱量(GJ/t) = 148(kl/年) × 37.145(GJ/年) × 90.0(%) ÷ 98.0(%) ÷ 48.26(GJ/t) = 104.6(t/年) ※A重油使用量は2010年1月~2010年12月の合計値を使用</p>		パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠	PE _{化,y}	プロジェクトにより更新したボイラ装置が消費する化石燃料起源の年間CO ₂ 排出量	319	tCO ₂ /年		FC _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量	104.6	t/年	下記参照	CV _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量	48.26	GJ/t	低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95	CFE _{化,PJ,y}	ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO ₂ 排出係数	0.0631	tCO ₂ /GJ	低位:デフォルト値÷0.95
パラメータ	パラメータの説明	値	単位	根拠																						
PE _{化,y}	プロジェクトにより更新したボイラ装置が消費する化石燃料起源の年間CO ₂ 排出量	319	tCO ₂ /年																							
FC _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて更新したボイラ装置で消費された化石燃料の重量	104.6	t/年	下記参照																						
CV _{化,PJ,y}	プロジェクトにおいて消費された化石燃料の単位発熱量	48.26	GJ/t	低位発熱量=デフォルト値(50.8)×0.95																						
CFE _{化,PJ,y}	ベースラインにおいて消費された化石燃料のCO ₂ 排出係数	0.0631	tCO ₂ /GJ	低位:デフォルト値÷0.95																						
<p>【モニタリング体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算定責任者を代表取締役社長とし、業務ごとに算定担当者を定めている。 ・工務課員、ボイラメーカー等が測定したデータを算定責任者までに2次チェックを行うことで収集されたデータのチェック体制を構築している <p>【QA / QC 体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料使用量等のモニタリング体制の仕組みの運用状況を年1回定期的に監査を実施する。 ・各作業者に対して、役割・責任・権限に対しての研修を実施している。 ・各種データは実施後3年間保管することを規定している。 ・計測機器ごとに「モニタリングプラン」に定めた頻度において、定期的な効率測定を行う。 																										
プロジェクト実施場所	(プロジェクト実施場所が複数ある場合は、全ての住所を表形式等で記述する。) 香川県さぬき市長尾西 1881 番地																									
<方法論 R001・R003 のみ> プロジェクト対象面積																										
プロジェクト期間	2011年2月21日 ~ 2020年2月20日(9年0ヶ月)																									
クレジット期間	2011年2月21日 ~ 2013年3月31日																									
プロジェクト計画開始届提出日	2011年3月14日																									
妥当性確認終了日	2011年5月23日																									

想定削減・吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
t-CO ₂ ³		0	0	6	81	81	168
適用モニタリング方法ガイドライン	オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン (排出削減プロジェクト用) ver. 2.4						
適用方法論	方法論番号	JEAM011 ver. 1.3					
	方法論名称	ボイラー装置の更新・燃料転換					
ダブルカウントの防止措置							
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	(プロジェクト代表事業者と同一の場合は記入不要)						印
公的な報告・公表制度(判明している公的制度)	<ul style="list-style-type: none"> ・公的な報告・公表制度には参加していない。 ・本プロジェクトに関わる排出削減量について、他のクレジット制度等での主張はしない。 						
自主的な報告・公表対象(対象となるホームページ、環境報告書等)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、自主的な報告・公表を実施していないが、今後実施するにあたっては、当該プロジェクトにおいて発行されたクレジットについては、環境価値の帰属を主張しない。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量(環境価値を他者に譲渡していないもの)については除く。 						
備考欄							

以上

³ 小数点以下は切り捨てとし、トン単位で記載してください。よって、小数点処理のため、表記上では単年度の削減量・吸収量の合計と、各年度合計量が異なることもあり得ます。